記者会見概要

【日　時】　平成 23 年 4 月 26 日（火）17：00～17：30
【場　所】　都道府県会館 3 階　知事会会議室
【出席者】　山田全国知事会会長（京都府知事）
　　上田埼玉県知事

（山田全国知事会会長）

新会長に選任されました山田ですが、正直言って、焦りを感じております。といいますのは、この間、統一地方選等がありまして、知事会自身の動きが少し鈍っていたという事実があります。しかしながら、現在は、たいへんな危機の状況にあり、これに対応していかなければならない課題が山積しております。会長選のことは、この瞬間できっぱり忘れ、上田知事さんと手を携えて、地方が本当に何をしていかなければならないか整理し、積極的にがんばっていきたい、努力をしてまいりたいと思っております。どうぞ、みなさまにもよろしくお願いを申し上げます。私からは以上です。

（上田埼玉県知事）

もともと私なりに、一期目終わりの、公共調達に関するプロジェクトチームのあたりから、私も知事会の主たるメンバーというのでしょうか、働くメンバーになっていきまして、それ以来ずっと山田知事を見ておりました。知事会のメンバーの中で、最も働いておられた方なので、なられて当然、順当、と思っておりますので、心からお祝いを申し上げ、これからたぶん、多少、手法が違うかもしれませんが、もし、山田会長が不得意な分野で私が得意な分野があれば、ご下命があれば一所懸命またがんばっていきたいな、と思っております。以上です。

＜質疑応答＞

（記者）

新会長に伺います。原発に関する研究会を設けるというが、いつか。

（山田全国知事会会長）

早急にやらないといけません。原発の本部の設置に向けて、立地都道府県中心になると思うが、メンバーを募っていきたいというふうに思っています。そして、福島の原発に対するしっかりした収束の見通し、福島に対する被害対策、それから全国の原発の安心安全対策、さらには、エネルギーに対する中長期的な対策、こうした問題に対して、知事会も特別法まで頭の中に入れながら、行動していきたいと思っております。すぐに動かなければならない、一番重要な問題と思っています。

（記者）
原発立地の是非についても一定の方向性を出すということか。

（山田全国知事会会長）
まず、本部を立ち上げまして、その中で、スタンスの見直しが当然だと思っておりますけど、原発問題についてどういうスタンスをとるのか、関係府県としっかり連絡をとりあい、議論をして、その方向性を出していきたいと思っております。内容については、立ち上げてから、ということで、今はここまでしか言えないことをお許し願います。

（記者）
国とこれからどう向き合うかについて、復興と地域主権会議の課題について、具体的に国のこういうところがもの足らないとか、懸念される点について、知事会としてどう議論し指導していきたいか。知事会自身を自己改革する余地はないのか。

（山田全国知事会会長）
国の方は、なかなか決断ができていない。被災者生活再建支援法につきましても、調整をするという話だけしかない。ほとんど、空手形のまま物事が進んでいる。これで本当に国民が団結していけるんだろうかという危惧を持っております。上田知事の政治力はすばらしいので、そういった観点からコンビを組んでやっていければいいなと思っております。
知事会自身については、わたしの所見の中に書いているように、知事会は根本的に変わっていかなくてはならないと思います。状況によっては、組織として動くことができないことがある。それは、国と地方の協議の場が始まれば、より明らかになってしまうと思っていまして、知事会が組織として動ける体制づくりというのも、私の大きな課題の一つと思っています。

（記者）
山田会長にお伺いします。昨年の全国知事会議で沖縄県の仲井眞知事が、米軍基地の応分負担を提案したことがありましたが、米軍基地の応分負担なり今後の議論について取り組まれるお考えがあるか、またどのように取り組まれるのか、お願いいたします。

（山田全国知事会会長）
まず、全国の都道府県は、沖縄に国防において大変な負担を負っていただいていることについては、等しく認めて感謝をして協力していこうと思っております。しかし、我々が国防をするわけではありませんので、国がまず国防の責任とそのあり方というものを明らかにしていくべきです。その点について昨年５月に鳩山総理が全国知事会議に来ら

れましたが、お願いベースの話のままでは、あまりにも無責任だと思っております。そういった点については知事会でも団結して行動できるようにしていきたいと思っています。

（記者）

地域主権 3 法が衆議院を通過して、国と地方の協議の場法制化が見えてきました。それに当たって、まず最初に、近く開かれるであろう協議の場で、何をテーマに国と相対するのか、今のお考えをお聞かせください。

（山田全国知事会会長）

もともと、国と地方の協議の場を作るために国と交渉してきましたが、正直言って、最初からかなり荒れるのではないかと思っています。と申しますのは、我々はやはり、この国の問題を解決するためには、制限を設けずに、しっかり国と議論していかなければいけない、そうでなければ済みませんよということを申し上げたいと思っておりますけれども、国のほうは今までのいきさつからすれば、できるだけ穏やかな話からじりじりとと言っています。そんな場合じゃないだろうということを、まず申し上げていかなければいけないと思っています。

テーマについては、我々はすべてのことについて、議論をしていく用意があると申し上げます。

（記者）

今、目下の急務として、会長のおっしゃった原発の問題ですとか、復興の問題、さらには社会保障と税の一体改革、今日も会議の中で話がありましたが、政府のほうでは 6 月にも取りまとめをという方向で進んでいます。これらを一括して協議していくのか、個別に協議していくのか、このあたりはいかがなのでしょうか。

（山田全国知事会会長）

問題は、非常に多岐にわたり複雑化しております。国と地方の協議の場の法案には専門的な分科会を作ることまで書き込んでいるわけですが、分科会においてそうした問題をしっかりとお互いに納得がいくまで議論していくことが必要だということを、我々は主張していきたいと思います。総括的に一通りなめたらそれで終わりということは許されないと思っています。

（記者）

ということは、それぞれのテーマにつき分科会を設けてやっていくという、そういうスタンスでよろしいのでしょうか。

（山田全国知事会会長）
政府の方と折り合えれば分科会を設ける必要はありませんけれども、対立点があるのならば、必要に応じて分科会を設けて納得のいく議論を展開するべきだと思います。

（記者）
上田知事にお尋ねします。選挙に当たって、この時期だから西ではなく東だというようにおっしゃったと思いますが、今回山田知事がなられたことについて一言、山田知事に対する注文というか、そのあたりを教えていただければ。

（上田埼玉県知事）
なかなか難しい質問ですね。我々は被災者の受け入れを巡って毎日事件が起きているんですね。そういう意味で敏感にいろいろな反応をしております。例えば、小中高であれば入学の手配をする、教室、教師の確保をするとか、住宅、就職など毎日いろいろな課題をやっております。そういう生々しい課題というものを全国の皆さんにいろいろな意味でシンパシーを感じていただいて、いろいろなご支援をしていただいていることも事実ですが、知事会としてまとめて政府に強く要求していくとより強いものになっていきますので、そういう部分で知事会の役割というのは大きいと思っております。地方六団体の要でもありますので、私は、しっかり山田会長にお願いをしたい。厳しい被災地になったところと比べると埼玉県もないわけではありませんが、桁外れに小さな被害でありますから、知事会としても受け止められるようにしっかり提案をして、またその取りまとめに、できれば自分も努力していきたいと思います。

（記者）
それを受けて、山田知事にお聞きします。被災した現場から遠いところの知事であるということで、東日本に遠いのではないかというような懸念もあったと思いますが、そのあたりはどのように対応していかれるところでしょうか。

（山田全国知事会会長）
今回票数２５対２２、同数と言ってもいいくらいです。そういう意味で、上田知事と私はこれからコンビで頑張っていかなければ、４５県の皆さんの信任は得られないと思っております。そして、災害に対しましても、被災地の皆さんの感覚と被災地から遠いところの感覚がずれていては一番いけないと思っておりますので、こういった面につきまして、やはり上田知事に中心になっていただきたいと思います。それによって知事会全体として、組織として感覚をしっかりと持って対応していきたいと思っております。

（記者）
上田知事にお伺いします。先ほど得意分野があればというお話でしたが、これまで上

田知事は、国からの財源や権限の移譲に取り組んでこられましたけれども、このあたりの姿勢について今後変化はあるのかどうか。あるいは決意についてお伺いしたい。

また、今回の会長選挙の後、次のご自身の知事選挙がありますが、それに向けた決意になにか影響することはあるのでしょうか。

（上田埼玉県知事）

まず、国に対してということでありますが、実は地域主権戦略会議にかかるいろいろな会議で、出先機関原則廃止にかかる各省庁からのヒアリングでも、一番受け止めていただいたのが、山田知事であり、佐賀の古川知事であり、3 番目くらいに私がやっていたのかなと。次には、地域主権戦略会議の中でのアクション・プランの委員会の中で、委員という立場、そして、山田新会長知事は知事会の代表という立場で、意見交換をするというような形の中で、それぞれ、ここのところはずっと一緒に作業をやってきました。

多分いろいろな形で、まだどのような形になるかはわからないですが、地域主権戦略会議のアクション・プランの委員会の中で、具体的にやっていかないといけないので。受け皿がないじゃないかと言われて、広域連合を作ると、今度は広域連合はガバナンスがあるのかいと言われる。適当というか、とにかくけちを付けて渡さないという話なので、相当いろいろな意味での腕力、力仕事が必要なので、私なりの役割もあるのではないかと理解しております。

そして、次の知事選挙に何か影響があるかどうかについて、この知事会の会長選挙に出るかぎりは、次の知事選挙に出ることが確定だというように言われておりますが、まだ正式にそのことについては触れておりません。私の生き方の問題なので、2 期目の 2 年間をきちんと総括して、私なりに納得した上で申し上げたいと思っております。不利とか有利とかいうことを言っていると政治はできません。51％支持をいただければ政治家を続けられますので、私は、不利とか有利とかは関係なく、自分の掲げてきたことを確実に実行し、そして、新たなる課題をきちんと県民の皆さんに提示でき、そのことをきちんと県民の皆さんが評価すれば、そこで出馬についても明らかにするというように考えておりますので、不利だとか有利だとかそんなことは全く考えたことはありません。

（記者）

山田会長にお聞きします。市町村との関係ですが、社会保障の分野で特にお聞きします。震災後、これから各市町村と都道府県との連携が特に必要となってくると思いますが、特に社会保障に関して、市町村とどのような関係を築いて行かれるのか、お考えをお聞かせ下さい。

（山田全国知事会会長）

なかなか、辛い質問です。今まで私はどちらかというと、この分野におきましては、

知事会の反主流派だったんです。国民健康保険の都道府県単位化とか、これから都道府県が負わなければならない範囲が福祉、社会保障の分野で多くなってくるので、市町村と連携していかなければならないという主張をしてきました。どちらかというとこれは反主流でしたが、会長として私はこの信念に揺らぎはございません。その面から申しますと、社会保障の面において、今まで知事会は市町村との距離が開きすぎていたのではないかと思っており、これは早急に改善していきたいと思っています。

（記者）

沖縄の基地問題について山田会長にお伺いします。先ほど、国防については国の専権事項なので国が動かないと、ということでしたが一方で、知事会としても団結して行動していきたいとおっしゃっていたと思いますが、仲井眞知事も、昨年、国民全体で応分の負担をしてほしいということで知事会に直接訴えたと思いますが、この基地問題については、枠組みとしては渉外知事会もあると思いますが、今後具体的にどう国に働きかけていくのか教えて下さい。

（山田全国知事会会長）

これから相談をしていかなければなりませんが、まず国防に対する国の基本的な考え方が明らかになってこないと我々知事会としても協力のしようがないのではないでしょうか。そして、国防について基本的な枠組が明らかになってきたときには、知事会としてできるだけ協力をしていくことが、これまで沖縄の皆さんに大きな負担をかけてきた地方公共団体の長としての責任ではないかと思っており、そのような形で行動していきたいと思っております。

（記者）

山田会長にお伺いします。前回、6 年前の会長選挙で当時の麻生新会長が述べた中で、地方六団体の結束ということがありましたが、今後協議の場が法制化されて、また六団体で意見調整する必要が増えてくるかと思いますが、他の 5 団体の付き合い方についてはどのようにお考えでしょうか。

（山田全国知事会会長）

基本的に、地方六団体共通の議論の基盤を作るために本部を設置してきたのですが、結局それが形骸化しています。国と地方の協議に臨む前に本当の意味で真摯な議論を六団体の間でしていかないとばらばらになってしまいます。これまでは、ここをぼやかしてきたのではないかと私は思っております。その面から申しますと、所信表明に書かせていただきましたが、六団体共通の基盤を早急に作って、そこで六団体の会長、また担当者自身が思いきった議論を展開していく土壌を作っていかないと、空中分解してしまうのではないかと心から恐れておりますし、現実にそういうことを見聞きしてきました

ので、早急に対応していきたいと思っております。

（記者）

今回２回目の知事会長選挙になりましたが、一度目と違って二度目の意義について、振り返ってお考えになってどのようかということが１点と、上田知事には、山田知事のどのような手腕に今後期待されるかということをお伺いしたい。

（山田全国知事会会長）

選挙について、個人的なことを申し上げて非常に恐縮ですが、選挙をすることによって覚悟が決まってくる。４６人の知事さんの前で、所信、決意を述べさせていただきましたが、覚悟を決めて臨むこととなり、それに対して各知事さん方にも私の思うところ、また、上田知事さんの考えを聞いていただきました。これによって知事会としての方向、考え方がより固まるということを期待しております。

ただ、選挙というのはある面では、副作用のようなものが出るのではないかということは私も非常に気にしておりまして、とにかくみんなが団結する基礎を作っていかなければならないと思っております。立候補者にはわからないのですが、周りでは頑張っていただいたので、頑張れば頑張るほど副作用が出ないかと心配しております。ただ選挙をしたことによって、知事会の姿勢が明確になり、決意が明確になり、やっていかなければならないことを共有できたという点では、選挙はやらないよりは、やったほうがよかったということを改めて感じております。

（上田埼玉県知事）

個人的には、まだ十分つきあっていない知事の皆さんと、電話で話をしたり、改めて人との信頼関係を作るチャンスを与えられたのかなと思っております。思わぬところにいろいろなご縁があって、またこれからいろいろなプロジェクトや委員会をやっていくなかで、役に立つような気がいたします。依って立つ基盤というのは一般的には関東知事会だとかそういったところからスタートしていくし、あるいはかつての政治家仲間だとか、そういったとことでしたが、今回は幅広にご支援をいただくためにいろいろな形でいろいろなご支援をしていただいた中で、いろいろな情報を知ることができてよかったなと。また、いろいろと仲良く仕事ができるかなと思っております。

俗に言う選挙のしこりなどは、知事の座がなくなったわけでもありませんから。会長というのは、ボランティアの最たるもので人事権もありません。副会長はブロックごとに選出されますが、会長は本当に重い責任だけ背負ってやらなければいけない立場ですから、やはりそのことを意識してみんなが支えてあげないと。そして、そのこと自体が日本のためになるということを、みんなが感じなければ。私も１期の頃はまだ自分のことで忙しくて、１期目の後半に、麻生会長から、国会の疑惑追及のプロであったこともあるので、公共調達改革などは適任だろうと思われてお手伝いしたのが契機になりまし

て、結果的にその後、いろいろとお手伝いする機会を与えていただきました。会長が大変ご苦労されていること、我々の知らないところでそれぞれの委員長さんだとか、プロジェクトチームのリーダーたちが努力されていることを知って、私も申し訳なかったなと、もっとしっかりお手伝いしなくちゃということがわかったわけですから、山田さんが最もトップレベルで知事会のために頑張っていたということをよく知る人間の一人としてボランティア会長をしっかり支えていかなければいけないと本気で思っております。

（記者）

山田会長にお尋ねします。会長として今後全国のためにお働きになるわけですが、関西広域連合の一員でもいらっしゃいます。知事会長になられたことによって関西広域連合の一員として、何か活動として変わる部分があるのか。あるいは逆に、その経験を知事会に生かせる部分があるのかどうか教えて下さい。

（山田全国知事会会長）

こうした活動は、すべて私の中では一貫しているつもりです。都道府県が自立を果たさなければいけない。しかし、自立を果たすといっても自分だけで立てるわけではない。お互いに協力しながら、支え合いながらいかないと、本当の意味で国民の皆さんの前で本当に効果的な無駄のない行政はできないと思っております。そうした一つの手法が関西広域連合であり、更に全国知事会であると思っております。その点で、同じ思いで取り組みたいと思っておりますけれども、今、上田知事さんからお話がありましたように、会長は本当にボランティア会長です。麻生会長も大変な忙しさで奮闘されていましたが、知事会をより組織として動けるようにするためにプロジェクトチームを作って運営されてきたと思います。しっかりと知事会が組織として動けるようにすることによって、全員の力を活かせるような形にしていくことが大事であり、これは関西広域連合も同じ考え方ではないかと思っています。

（記者）

山田会長にお聞きします。今日の得票数の差について２５対２２とかなり僅差ですがどういう受け止めであったのか。また、官僚出身の会長ということで国と厳しく折衝なり交渉できるかという不安もあると思うのですが、その点についてはどうこたえていくのか。

（山田全国知事会会長）

票数については私も接戦になると思っておりました。上田知事は本当に力のある、今まで知事会の中心として頑張ってこられた知事さんでありますし、今も本当にすばらしい力量を発揮されていますので、接戦になるのは当然だという受け止めであります。

それから、官僚批判がありますが、これはいくら弁明しても仕方がないですので、自分の行動で見せていくしかないということが、今日の所信表明の中でも一番言いたかったことでありまして、これからの行動でそういった疑問には答えていきたいと思います。

以上